

「スペイングルメを地中海で楽しむ + パラドール」旅行記

(2010年8月2日～10日)

= 8月2日(月) =

出発は非常にスムーズ。KLMの座席も提案いただいたとおり、中央で通路から2名で正解。B-777で、On-demandで映画などまあまあ充実。

スキポール空港は広がった。それぞれのターミナルまで～分という表示が印象に残る。ターミナルを移動する途中で入国審査があり、中国人らしき集団が前方で時間を要していて結構待たされた。搭乗口について一休みしていたら、搭乗開始。そしてバルセロナ空港到着、ターミナル1の近代的な作りに感心。これまた歩く距離が長い。わたし達は歩いているので、荷物は待たずに出てくるかと思ったら、30分くらい待たされた。

到着口を出て、ドライバーにはすぐに会え、ホテルに無事チェックイン。荷物を置き、アドバイスどおりグラシア通りへ向かった。ふと左手にナイキのサッカーショップ、息子に頼まれていたサッカーチームのユニフォームを、背中に好きな番号と選手の名前をその場でアイロンプリント(もちろん追加料金)でゲット。カサ・パトリヨのライトアップを見てユーターン、途中で良さそうに見えたLa Vaca Pacaに入る。ピュッフェなので簡単に済ませられた。(ドリンク1杯つけてお手ごろセット料金; 一人€10.9) 食事をしながら翌日の行動予定を妻と協議・確認。

= 8月3日(火) =

バルセロナのフリー観光時間が限られているので、午前中のツアーの前にサン・ジョセップ市場へ行くことに決めた。翌日の移動の最初に地下鉄に乗ることを考え、3号線を2駅ほど試しに乗ってみた。(結構階段が多かったので、「翌日の近郊線セント・アンドリュウ・アレナール駅へはタクシーでいいか」という気持ちになる) サン・ジョセップ市場に8時半ごろ到着し、各店が商品陳列をし始めているところ、各店の艶やかな陳列に目を奪われる。野菜・果物屋、魚屋、肉屋、きのこ屋、卵屋、お菓子・ナッツ・ドライフルーツ屋、、、。何百年もかけて毎日毎日少しでもお客さんが買う気を起こさせようとする工夫の積み重ねを感じた。東京の築地市場が外国人観光客にもものすごく人気がある理由がよくわかった。今、自分たちも同じ気持ちになっていると思う。妻が思わずナッツとドライフルーツを量り売りで買ってしまふ。肉屋ではハモンセラノが美味しそうに並んでいる。常温保存

可能な薄切りパック(Jamon G. Reservaと書いてあった)を見つけて購入。(最終日に空港で見た価格より、すごく安く買った。)この朝に市場へ行って本当に良かった。他の日に行ける時間はなかった。



午前中のツアーは20名弱が参加。集合場所にトイレがなく(ホテルコロソ前という案内が、逆にホテルのトイレを利用できると思わせてしまうが、ホテルは利用させてくれない)、ガイドが数名を地下駐車場まで駆け足で案内する羽目に。海外のトイレは、日本と本当に勝手が違う。このツアー、遠藤さんが言われたとおり、短時間でお手ごろ。サグラダ・ファミリア前で解散だったが、現地申し込み組みは内部見学まで予定が組まれており、我々のように組み込まれていない人は、ファミリア入場料(団体割引€10)を追加払うだけで一緒に見学できるということだったので参加。(良心的!)しかも、個人で入場するには長蛇の列、裏の団体用入口からサッと入り、ガイドが15分くらいかけて要所を説明。これはラッキーだった。その後解散個人行動。中が全くの工事現場同然というのには驚かされる。完成までまだまだ建造中というのは外部や上部の塔の工事が続いていると勝手に思い込んでいた。回廊へ上がるエレベーターは裏の方がすいているとアドバイスあったが、それでも30分待った。でも上がって良かった。下りの螺旋階段は面白かったが結構疲れた。地下の博物館をサッと素通り見学し、表の土産ショップで買い物。



気がつけば14時を回っていたので、タクシーで再びホテルコロソ(午後のツアーの集合場所)へ。元免税店の場所(元はそこが待ち合わせ場所だったらいい)のパン屋でサンドイッチとジュースを買い、ベンチで昼食。そしてモンセラットツアー。同じ男性ガイドさん。一組午前中と同じカップルもいて、全員で8名。山好きの私にとって、ノコギリ山が結構良かった。黒いマリア様は30分以上待ちということで近寄れず。他の見どころの像や絵も、並びながらでないと見られなかったもので、妻はちょっとがっかり。礼拝椅子最前列からかるうじて拝む。カタルーニャ広場にて18:30ごろ解散。

全然夕食を食べる雰囲気ではなく、エル・コルテ・イングレス百貨店の地下スーパーへ。妻がチェックしていたガイドブックに載っていた食品を買う。パッケージ表記は当然スペイン語のみ。ガイドブックの写真を頼りに妻のセンスで決める。生ハムのパテ、タコの缶詰、ハモンセラノ風味のポテトチップ、アリオリ、チュッパチャップス(バルセロナ生まれとは知らなかった)、そして水。カタルーニャ広場反対側(ツアー解散場所手前)に安い靴屋が沢山あるとガイドさんが言っていたのでそこへ向かい、妻がサンダルを買う。結構な荷物になったので、一度ホテルへ戻る。(20時ごろ。)

ホテルフロントで4Gatsを、20時半で予約してもらう。歩いて10分だということで、再びカタルーニャ広場を過ぎて狭い路地へ。奥のレストラン席に通される。ここの雰囲気・料理は美味しかった。調子のいいソムリエが「ワインも一人3杯飲んだらボトルなんてすぐ空く!」と言われて、勸まれるがまま二人で一本飲んでしまった。(全部で€99.5。ま、リーズナブルかな。)

= 8月4日(水) =

平日のバルセロナ滞在はこの日の午前中が最後なので、ショッピングに優先順位をおいた。ただ、店の開店時間は大概10時なので、まずはカサ・ミラを見学することに。前日のツアーガイドさんが、「パトリヨのほうが人気あるが待ち時間も長く料金も高い、カサ・ミラは中が博物館になっているので見どころもある」と教えてくれたので、迷わずカサ・ミラへ。9時過ぎに到着。朝一番なので待ち時間もなく、屋上からの眺めもさすが良かった。換気塔が山の峰々を表していると「地球の歩き方」に書いてあるが、どうしても鉄仮面をかぶった人の頭に見えてしょうがない(妻はダースペーダーの原型だとインスピレーション)。

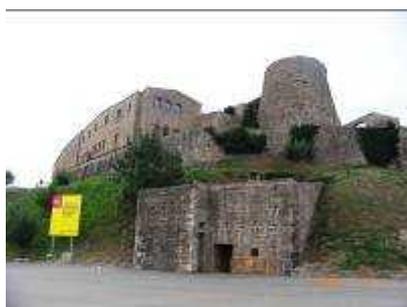
10時過ぎからガルシア通り周辺の予めチェックしていた店を回る。私は靴、妻はバッグを買う。アクセサリーショップ2-3軒見るが、妻のイメージとちょっと違っていた。じゃー、ということでZARAへ入る。さすがスペインあち

ここに ZARA を見かけるが、その中でも旗艦店ばい店へ入り、妻のお買い物。数アイテム買ったが、やっぱりお手ごろ価格だった。

バルで昼食後ホテルへ戻り、いざカルドナへ。ここで二人でいいことを思いつく。買ったお土産などは、8日に戻ってくるまでホテルで預かってもらった。

タクシーで近郊線駅へ。14:53発を目指したので時間的には余裕を持てた。マンレサ駅到着。遠藤さんの最後の情報「タクシーがつかまりにくい」を甘く見ていた。タクシー乗り場にタクシーはなし。駅員に聞いても英語は通じず。「そこで待て」といわれている感じ。ある人が電話で呼んだタクシーの運転手に「戻ってきてくれ！」ジェスチャーし、運転手も「わかった！」と身振りをしてくれた感じ。別の客が電話で呼んだタクシーの運転手にも同じことをしたら、今度は「電話しろ」とジェスチャーしているように見えた。頭の横で手を振るのは、了解の意味か？それとも？？よく見ると親指と小指を立てて残りの指は握って振っている。これは電話をかけるという意味か！駅到着後30分経過したので、電話を試みる。受付係りに英語は通じなかった。私が事前に唯一覚えたスペイン語の駅という意味の「エスタシオン」を使って「マンレサ エスタシオン！」「タクシー！」と言っていると、さっきのタクシーが戻ってきて、「乗れ」と言ってくれた。電話には「オーケー。オーケー。」と言って切るしかなかった。運転手は無線で受付係りと話している感じ。たぶん、我々のことを確認したのではないか。とにかく、やっとタクシーに乗れた。遠藤さんから「5時にはチェックインを！」といわれていたので、ギリギリのタイミングであった。5時過ぎにパラドール到着。

ガイドブックの写真の通り、小高い丘の上にあるお城。塔の上から360度の大パノラマ。南に遠くモンセラットも見える。北はピレネー山脈？ロマネスク調の教会跡は、鍵が開いていたので運良く中を見ることができた。部屋も小奇麗で、中に入ると古城にいる感じがしない。バスルームもキレイ。食事は予約なしでOK。私はカタルーニャの伝統的メニューのコースを頼んでみたが、正直あまり美味しくなかった。(今回の旅行中の食事で唯一の失敗...)



= 8月5日(木) =

朝食ビュッフェには、朝から CAVA があるのにビックリ。また、テーブルの上にメモがあり、「ビュッフェにないが目玉焼きも欲しければ言ってください」とあったので頼んでみた。ちょっと満足。朝食後は、城の周りを一周。いろんな角度から城を見上げる。爽やかな散歩となった。南側に露天掘り採掘場と白い大きな山が見下ろせていて、来た時から気になっていて の人に聞くと塩であった。近くに洞窟もあるらしい。そう言えばマンレサ駅から途中で真っ白な山が見えたが、きっとあれも塩の山だったのだろう。テラスでゆっくりして、車が来るのを待った。

予定通り 12 時にチェックアウトして出発。快適なドライブで、1 時間ちょっとでバルセロナ空港へ到着。ヴェーリング航空のチェックインカウンターは長蛇の列。一番右のカウンターがインターネットチェックインした人用と書いてある。われわれもボーディングパスは持っている。いけんるんじゃないか？妻が様子を見に行く。同じようなものを持っている人が、バーコードをピピピとやってスピーディにチェックインしているみたいだ。ということでよしトライ。念のために妻は元の列で並ぶ。私の前に 2 組の家族だけだ。ちょっと待たされた無事チェックイン。妻の列もカウンターが増設されて急に進みが速くなり、私へ電話したのだがマナーモードのバイブレーションがわからず、せっかくのレンタル携帯電話の威力を発揮するチャンスを生かせなかった。カルドナからの車が早く着いたので、免税店のお土産コーナーをゆっくりチェックできた。帰国日は朝早いので吟味をする時間がない。職場へのお土産用候補となる、バルセロナという名前が入ったチョコ、クッキー類を見つけおけた。マヨルカ島行き便に他に東洋人は一切おらず、地中海のバカンスに期待が高まっていった。到着空港でドライバーと無事合流し、ホテル・ニクシーパレスへ。

ホテルの部屋でちょっとトラブル。シービューのはずが、最初の 1 泊だけ部屋が用意できない。お詫びに今日の夕食をホテルのレストランで取ってもらえれば、その代金をフリーにするという。特に金額に上限も言わないので、その申し出を了解することにした。ひと段落したら 19 時頃だったが夕食まではまだ時間があるので、ホテルの外を散策。コンビニ兼お土産屋とお土産屋、レストランが軒を並べる。バス停にビーチから帰る観光客が沢山待っている。街中のホテルに泊っている人たちか？水と部屋での飲み物を仕入れてホテルへ戻った。こじんまりとしたビーチリゾートのメインストリートで、「地球の歩き方」になんで紹介されていないの？と思っていた。(これを書く時に改めて本をチェックしたら『ビーチでリゾート気分』というコラムにカラ・マジョールではローカルな雰囲気を楽しめると書いてあることに気がつく。まさに、その通りであった。)夕食は、高いワインでも頼ん

でしまおうかと思っていたが、地元産のハウスインを勧められ、デザートもお勧めのアーモンドケーキ(マヨルカではデザート定番?)を食べ、二人で€90弱だった。€100以上食べてやろうと思ったのに、、、、。(これが、シービューをシティビューに変えさせられた1泊の差額として相当かどうか、遠藤さんのご意見を聞かしてもらいたいです。)

= 8月6日(金) =

シービューの部屋へ、外出から帰るまでには荷物は移動しておいてもらえるとは言われながら、スーツケースに全ての荷物を入れておくこと、何よりもパスポートなどの貴重品をどうするか(ホテルフロントのセーフティボックスに預けることにした)、7日のSpaを予約したいが部屋番号が決まっていないので確実に予約が取れるか不安が残るなど、手間が掛かった。朝食は、ビーチが見下ろせるテラスで快適。ここでも朝からビュッフェにCAVAがあった。二人ともロゼをいただく。

今日はソジェールへの小旅行へ出発だ。事前にいただいていた情報を元に、10時過ぎのレトロ列車を目指す。タクシーでスペイン広場の駅へ9時半ごろ着いたら、すでに10名くらい並んでいた。改札後、先頭電気機関車、それに繋がる木製の客車は近寄り放題。しっかり写真を取らせてもらった。列車は6両か7両編成で、しばらくはガラガラだったが出発するころにはほぼ満席になっていた。いよいよ出発。街中を抜けその後次第に田舎の風景へ、そして山間の渓谷の合間をゆっくり登り短いトンネルを過ぎたら眺めの良いところで止まった。何のアナウンスも流れず、少しずつ乗客が降り始める。後の席のアメリカ人家族の奥さんが妻に「どういうこと？降りていいのかしら？」と話しかけ、妻も「わからない」と返事するしかなかった。皆周りを見ながら「どうやらここで景色を楽しむらしい」と降りてきた。15分くらい止まっただろうか、皆それぞれ景色に満足して車両へ戻る。そして、反対側から列車がきた。行き違いも兼ねていたのだ。そして再び発車。アメリカ人家族の奥さんがさっきのがきっかけでいろいろ妻へ話しかけてきた。たぶん、英語が通じる他人と話ができるつかの間の喜びを味わった感じ。長いトンネルのあと、列車は下り始め一気にソジェールへ着いた。

目の前に乗り換えるべくトラムが待機していたが、我々はまずソジェールを散策。最初にパン屋のエンサイマーダが目に入る。本土から来たスペイン人も必ず買うらしいので、買ってみた。中がふわふわで美味しかった。そして、パンフレットに載っていたアイスクリーム店と隣接するソジェール特産品ショップ「Fet a Soller」へ行く。アイスクリームはパンフレットが言うほど「美味しい！」ではなかった。妻はこのショップを気に入り、オレンジの

香りがする塩や友人たちへお土産用オリーブオイルの小瓶を、私も友人お土産用にオレンジベースのお酒「Angel d'Ole」の小瓶を買った。街中をもう少しぶらぶらして、13:30のトラムに乗り込む。11時半ごろに着いた時もそうだったが、大人が引率した小さい子供のグループがいる。この「チンチン電車」は地元の幼稚園遠足の定番か？2-3両編成が、乗客の多さによって2編成で出発。港が見えてきたところで停車、数人の乗客が降りたので、皆ここが終点だと思って降り始める。そしたら「発車しますよー」というような鐘の音がなり、みんな慌てて車両へ戻る。これ結構、滑稽。席に戻って、それぞれの母国語で「てっきり終点だと思ったよ！何も言ってくれないじゃないか。おいてかれると思って、ほんとに慌てたよ」と言っているのが、雰囲気よくわかった。すぐに本当の終点へ到着。炎天下のヨットハーバーがまぶしい。それを眺めながら軽めのランチ。そしてお土産を物色。妻が可愛いワインの栓(飲み残しボトル用の栓で、頭が3-4cm四方の陶器で様々な絵が描かれている)を見つけ、オリーブの絵を気に入り、友人の人数分を見つけないがなかなかオリーブの絵柄が見つからない。大きいバケツかご2つの山積みの中からやっとのことで10ヶ見つける。そろそろ帰りのバスの時間。遠藤さんに帰りはバスが早いと教えてもらっていたので、ソジェールのi(トラムの形の建物)でバスの時刻表をもらい場所を聞いておいた。15:15発のバスでパルマへ向かう。時間も早いし一人€2.9も安い！



スペイン広場へもどり、妻の目当てのマヨルカガラス店「ゴルディオラ」を目指す。中心街・マジャール広場を抜け、この辺りのはず...でも見当たらない。もう少し進むと「あった！通りの角にあった！」と思ったら「閉まっている！つぶれたか～」と落胆し、隣のアクセサリ屋に入る。妻は人工真珠も目当てにしていたので物色開始。両方の母親向け、私の妹向け、妻用と、お手ごろ価格で見つけることができた。それじゃーまたブラブラするかと店を出て、ふと隣を見るとガラスショップが開いているではないか！さっきは昼休み？！確か16時半は過ぎていたと思うが。。。中へ入るとマダム(50歳~60歳か?)が一人、接客してくれた。一人なのでしっかりゆっくり昼休みを取っていたのだろうか。スペインのシエスタ文化を思い知らされた。「地球の歩き方」に紹介されてい

るだけあり、豊富なガラスの品揃え。妻は奥の方にあるやや大きめな器(肉厚の透明なガラスに青い帯)が目
に留まり、それを購入。目的成就。あとはそれぞれの父親向けだ。何が良いか困ってしまう。妻がサンダルは
どうかと、思いついた。そういえば、ソジェールでもそうであったが、お土産屋の並びに靴屋さんも結構ある。ど
の店も夏のバーゲン真っ盛りだ。女性モノが圧倒的に多い中には男性向け品揃えが充実した店も。2～3軒め
に価格も手ごろ(10数€)なサンダルを発見。まずまずのデザインだし Made in Spain (もしかしたらマジョルカ)
間違いなし、日本で男性サンダルの大きいサイズは意外に売っていないことも思い出し、いい買い物ができ
たと満足。これでお土産に思い残すことはなし！さて、それでは今晚のディナーはどこにしようか。あまり候補が
ない。妻が友人から聞きつけていた、現地人で人気のあるパエリアの美味しい店が国会議事堂内？にあると
聞いて探したが見当たらない。まだまだ明るい、けど、今日は歩き疲れた、早く食べてホテルへ帰りたい、など
と思いながら、カテドラルの下の広場のベンチで休憩。遠藤さんから教えていただいた店も、インターネットで住
所や電話番号を調べていなかったの、打つ手なし。でも、まだパエリアを食べていない！『王室御用達』には
惹かれるな～。荷物も多いし、ホテルに帰ってホテルから予約を頼もう！ということで、タクシーでホテルへ帰っ
た。

フロントにて、部屋が変わっていること・スーツケースをちゃんと移動してもらっていること・明日のSpaの予約
ができていることを確認、そして預けた貴重品をピックアップ。その際に、「サクランカ」を予約してくれないかと
頼むのだが、フロントマンが夜のパエリアはお腹にもたれるから勧めない、代わりに魚の美味しい店を紹介す
ると言ってくれた。勤まれるがままに、予約をしてもらおう。立派なサインつき紹介状も書いてもらった。(実は、そ
のレストラン自身の予約カードに記入したまでであった)ヨットハーバー沿いにある、窓からはライトアップされ
たカテドラルが見え、まずまずの雰囲気。英語のメニューをもらうが名前のわからない魚が多い。(電子辞書で
引いても～～科の魚)としか出てこない。入口にいわれる「today's catch」が並んでいたの、それ見て選ぼうと
したら、今度は値段の高さにビックリ。やむなくメニューから想像できそうな品目を選んだ。ま、でも美味しかつ
た。(CA N EDUARDO という店、€93.3 だった。)今日は長い一日だった。

= 8月7日(土) =

Spaの予約が11:30なので、それまでビーチだ！

案の定、場所の良い日陰にあるデッキチェアは、早朝から場所取りが完了されている。(リゾートホテルでは、朝食前に場所取りするのが鉄則だ。タイのサムイ島では我々も実行していた。)まずはプールサイドに行ったが、ここが非常に暑い。風が全然無く、直射日光にやられるだけ。我慢できず、ビーチへ降りる。ビーチには大きな傘とデッキチェアが規則正しく並んでいて、ずいぶん親切なパブリックビーチと違ってくつろぎ開始。10分ぐらいしたら、おじさんが“private property!”みたいな言葉を発しながらお金を要求してきた。周りの人は、「ウチは2脚」というようなジェスチャーでお金を払っている。こっちは11時過ぎには終了なので、値段も聞かずに「知らなかったから、使わない」といって逃げた。ホテル敷地内へ移動し、芝生脇の空いているデッキチェアに寝転ぶ。一眠りしたら、Spaの時間が近づいていた。Spaは、初めて聞くメニューで「しっかりめ」が好きな我々にとってはVery Goodだった。腕の肘から下を主に使って「ぐりぐり」とツボを押してくれた。Originはどこかと聞いたら、カリフォルニアだという。意外だった。サウナやジャグジーもあって、ホテルゲストは利用し放題と説明を受ける。(でもガラガラだ。後でまた来よう!)

時間も13時をまわり、昨日のホテルマンの提案どおり昼食はパエリア。サクランカを予約してもらいGo!(今日のホテルのフロントはみんな女性であることに妻が気づく。タクシーの運転手も女性だ。)一番ベーシックなミックスを頼むが、そのボリュームはすごかった。全部食べきれず。(€76.15と、そんなに高くない)腹ごなしにカatedral方面にヨットハーバーを歩いて向かう。いったいこのヨットのオーナーは誰たちなのだろう?スペインは経済危機にあるというけれど、別世界だ。会社の保有が多いのか?スペイン以外の国の人たちのものか?ま、いい天気でもいい眺め。土曜日の午後に見学できる場所が結構少なく、イスラム教の沐浴場跡を見学。昨日のタクシー乗り場まで戻ってタクシーを拾う。客待ちをしているドライバーがほとんど女性。土曜日は女性が働く日?妻は非常に不思議がる。我々の乗ったドライバー女性、メーターが壊れているので「12€でどうだ」と言ってきた。昨日と同じ乗った場所で、10€ちょっとだったことを覚えている。こっちが10というと、11と言ってきた。「だったら降りる!」と、100mぐらい走った信号で赤になったので、強引に降りた。こういうこともあるか。。

(実は、私が財布を忘れて昼食へ出発してしまっていた。サクランカに着いて気がついたが、妻が現金を130€ぐらいもっていたので、パエリア代は払えた。でもこれで明日のタクシー代が足りないかもしれない。なので、少しでも余分に払いたくなかったのも事実であった。)も一度タクシー乗り場へ戻り、次のタクシーでホテルへ戻る。やはり11€はしなかった。まだまだ陽が高い。最後にビーチへ。シービューの部屋へ移ってからビーチを見下ろしていてちょっと気になっていたのだが、トップレスの女性がいる!朝は人出がまだまだであったが、午後は

人がいっぱい、結構若い女性がトップレスで寝転がっている。さすがーヨーロッパ？そう言えば、タイのサムイ島でも欧州系女性はトップレスで日光浴をしていたことを思い出した。ちょっと目の保養をさせてもらい、波と遊んで、ホテル敷地内の芝生でごろ寝。本当はこんなことを2-3日したかったが贅沢は言えない。だいぶ陽も傾いてきたので、最後にSpaへ行ってみる。ジャグジーは水風呂だった。ミストサウナと背もたれが温かいチェアで軽くリラックス。そろそろ20時だ。今日は軽めでいい。フロントのフロアーにあるビストロ(朝食会場と同じテラス)で、夕焼け・日が暮れるのを見ながら最後のディナーを楽しんだ。



= 8月8日(日) =

今朝のホテルスタッフはまた男性へ戻っていた。いつもの午前中メンバーだ。妻は、なぜ昨日は女性だけだったのか、タクシー運転手も含め不思議が残る。チェックアウトの金額を見ると、初日のレストラン代がチャージされている。コンペイトでチャージしないはずだと言ったら、「ああーそうでしたね」とあっさり金額を訂正した。考えてみれば初日のチェックイン時は口約束だったので、どんな言い争いになるか一瞬不安がよぎったが、簡単に言い分が通った。ホテルを後に、タクシーで空港へ。スパンエアーのチェックインはそれほど混んでいなく一安心。それにしても本当に東洋人がいない。あっという間のマジョルカ島3日間だった。

ところで、Mallorca は、マジョルカかマヨルカか。。。私の推測は、カステーリャ語ではllóをジョと読みマジョルカ、カタルーニャ語ではヨと読みマヨルカ。人工真珠のブランドMajoricaは、島の名前そっくりのマジョリカと思っていたらマホリカ。あ、そうかJはラテン語系では発音は八行とかヤ行だったけ、自分では一応納得。果たして正しい？

そうそう、現金がない。バルセロナ空港に着いたら両替が必要だ。ホテルまでのタクシー代もない。でも、両替できるのは到着口を出た後のようだ。最初はATMを試してみる。うまくいったかと思ったら、最後にエラーメッ

セージ。(お金は出ずに、クレジットにチャージされたかもと、ちょっと不安。 帰国後に確認。大丈夫。)仕方なく、空港内の銀行窓口へ。5-6人並んでいたが、これがなかなかすまない。今日は日曜日だ。両替専用の窓口はクローズされていて、他の業務も受け付けている。みな出国の人たちだ。振込用紙やレシートらしきものを沢山窓口に出し、受け取ったクラークも事細かにチェックしている。しばらくして気がついた。免税の現金還付だ。出発に間に合いそうになく、待てずに列を離れてゆく人もいる。こっちはせいぜい100€欲しいだけなのに。でも辛抱強く待つしかなかった。40分は待たせようか、やっとタクシー代が手に入り、ちょっと久しぶりのアベニールパレスへ、14時過ぎに到着。預けていた荷物も無事受け取り、運よく部屋に入ることができた。

日曜日ではできることが限られる。事前に調べた結果、ピカソ美術館が日曜日の午後3時から無料なので、まずはそれを目指す。途中、ピカソ壁画のそばに偶然ピンチョスの店(ビルバオリベラという店だった)に入り、軽く昼食。日本で言えば、たまにある串焼き・おでん屋みたいに、くしの本数を数えて精算。バルより更にお手ごろ感覚。ますます日本人の嗜好に合う感じ。

ちょうど15時ごろにピカソ美術館へ到着。展示室の入口はどこかなーと探していると、長い列の先頭を発見。考えることは皆同じか、30分ぐらい待ってからの入場となった。無料なのに何かを入口でチェックしている。だから時間がかかるんだ。自分たちの番になると、国籍と人数を確認であった。ま、無料でも入場者の統計は必要なわけね。。それにしても、本物はすごい！3日の夕食を4Gatsで食べて本当に良かったと改めて思った。ピカソの次はダリ美術館。入場料を取る場所(ショップ)があまりにもこじんまり、ところが奥は深かった。暗室の展示場所もあったり、ダリの多才さが良くわかった。妻は岡本太郎を直感的に連想した。なるほど。。

さて、もう行くところがなくなった。最後に、歩ける範囲にあるカタルーニャ音楽堂に行ってみる。ガウディのライバルが作ったらしいが、概観だけで見るとイスラムぽさを感じた。まだ19時だ。レストランが開く時間帯は20時だが、明日の朝も早いし、早いとこ食べてホテルへ戻りたい。。元々ちょっと気になっていた「フレスコ」に向かった。ガイドブックに書いてある通り、サラダバー + おかず取り放題(ワンドリンクつき。ワイン・ビールもOK)。これで10€は安い。ソフトドリンクは飲み放題みたいだったが、ワインのおかわりはさすがに2€とられた(でも安い)。1週間、ずっとスペイン料理だったので、軽い食事に満足。ホテルへ帰って荷造りだ。

= 8月9日(月) =

ついにバルセロナを去る日が来た。飛行機は10:05発で、とにかく早く空港へ行ってチェックインするしかない。朝食開始時間7時に乗り込みサッと食べて、チェックアウト。月曜の朝のためか、タクシーが来るのにちょっと時間を要したが、8時ちょっと過ぎに空港到着。朝から人が多い。KLM のカウンターも長い列だ。説明を聞くと、まず自動チェックイン機を使ってボーディングパスを取れという。その間、妻はスーツケースをカートで押しながらカウンターの列に並ぶ。自動とは言いながら、係員が付き切り説明をしないとうまくゆかない。3台あったが、数人前にいるだけなのに、結構待たされた。皆慣れていないからだ。しかも日本人の10名くらいの団体が添乗員まかせっきりでやっている。グループはカウンターでまとめてやればいいのに。やっと自分の番が来た。パスポートもスキャンだ。妻のマイレージもここで登録。ハイテクだけど時間がかかる。一人旅だと不利だ。どちらの列もフルに並ばなければならない。二人旅で良かった。チェックインの次は免税手続きだ。これも不安な要素いっぱい。各航空会社のカウンターが並ぶ広い建物の端っこの奥まったところにあった。看板がちゃんと出ていないと思う。4日に買った私の靴が免税対象だ。これも前に3人しかいないが、なかなか進まない。ガイドブックをよく読むと、ここでハンコさえもらえば、あとは投函して後日クレジットカード口座に振り込まれる。この後さらに銀行で並ぶ必要がないが、このハンコだけは絶対に必要。還付額は、2足分で20€に満たないのだが、辛抱してハンコを受領。係員に投函箱はどこ？と聞くと入口を出たところの黄色い箱に入れると聞こえた。確かに150cmくらい、ポストらしき形があった。「スペインの投函ポストは黄色なのか〜」最後に一つ勉強になった。でも、「ここに投函せよ」的なメッセージ・案内ボードみたいなのが一切無し。私の次の人(欧米人)は、ポストには気づいたが投函の仕方がわからずと感っていたの教えてあげた。投函口の平べったい扉を少し上げて入れるのだ。後は、5週間後(ガイドブックにそう書いてある)に銀行口座の確認だ。空港って、国際空港でも外国人へ親切でないところが沢山あるよなーと、改めて思った。やっと手荷物チェックへ進める。搭乗口ではコーヒーを飲む余裕があって一息つけた。

次はスキポール空港でトランジット。ターミナル内での大移動。無事に関西国際空港行き搭乗口到着。さすがに日本人が多い。ヨーロッパ中から帰国の途に着く人たちだ。飛行機はすいていた。前の4列くらいがガラガラだったが、アナウンス説明によるとエコノミーでも追加料金を払った人のみシートだそう。多少は席の間隔が広いのか？あまり差は感じられない。CAに日本人男性が一人いた。海外の航空会社で男性のCAを見かけてことがあったが、日本人の男性は初めてだった。ものすごく気を使うタイプ(「気が利く」ではない)で、他の日本

人女性CAに「大丈夫？あ、それ俺がやるよ！」みたいなことが聞こえてきた。到着は日本時間の朝になる。食事後はとにかくできるだけ寝るようにした。

= 8月10日(火) =

順調に関西空港へ到着。日本は暑い！

=====

